

概要 町家や社寺などの伝統的な木造建築物や、漆器や木工品などの木の文化を守り育てるため、木造建築物の建設の誘導、技能の継承支援などを進める。

総合評価

B

客観指標評価については、主指標である木造住宅の割合が前年度と比較して増加していることから、大変良い傾向にあると言える。総合的には、指標が木の利用のうち住宅のみをピックアップしたものであることを考慮して、市民生活実感評価を重視し、施策の目的はかなり達成されていると評価する。

この施策の客観指標評価

客観指標総合評価: a

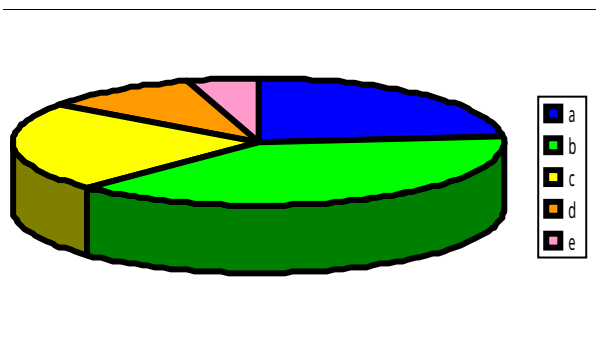
指標名とその前年値, 現在値, 目標値, 達成度

評価

戸建住宅の着工件数に占める木造住宅の割合 (%)	84.7	89.2		a
戸建住宅に占める木造住宅の割合 (%)	92.7	93.2		-
(準)外観上の特徴が残り建物状態が良好な京町家の割合 (%)		26		-

この施策に関する市民生活実感評価

まちなかには文化を感じさせる木造建築がきちんと残っている。



答a: そう思う	95	23.6%
答b: どちらかというと思う	156	38.7%
答c: どちらとも言えない	91	22.6%
答d: どちらかというと思う 思わない	42	10.4%
答e: そう思わない	19	4.7%
有効回答数	403	
市民生活実感評価		b

<参考> この施策実現のための主な事業

事業名

木造住宅振興支援事業(安心すまいづくり推進事業に含む。)

北部振興拠点イベント実施